

キノコの観察と採取

(兵庫きのこ研究会 2010.7)

1 準備

(1) 携行品と服装

a 採取用の道具

- ・小型の移植ごて、ピンセットなどキノコを丁寧に掘り採るための道具
- ・竹、蔓あるいはプラスチックのかご、まち付きの紙袋など、蒸れず形の崩れにくい入れ物
- ・キノコの個体や胞子がまざらないよう分けておく小さい紙袋
- ・微小なキノコを入れるマッチ箱、ピルケースなどの小箱
- ・緩衝用の新聞紙（草の葉を集めて代用しても良い）

b 服装など

- ・軍手、ゴム手袋などを着用
- ・スズメバチなどを寄せないよう黒っぽいリュックや服、帽子、また、香水を避ける
- ・マムシなどへの防御のため長靴を履く、熊よけの鈴など
- ・蚊取り線香や虫除けスプレー

(2) その他

- ・山行きの食料、飲料、薬なども場合により準備する
- ・キノコに夢中になって道を見失わないよう注意
- ・図鑑は小型でも掲載種の多いものが良い



2 キノコの観察場所

(1) 場所

- ・深い山でなくとも公園、里山で多くのキノコが見られる
- ・草の深い場所は探しにくい、むしろ切り通しや土手、山道の脇などに見つけやすい
- ・乾燥した所より湿った所が良い（但し水中は無い。ある程度風通しのよいところに生える）

(2) 季節等

- ・秋のみならず、梅雨にも多いが、キノコは周年見られる
- ・真冬にもエノキタケ、フユヤマタケ、小型の盤菌などが見られる

(3) 植生

- ・スギ、ヒノキ林は少ない（植林されたところは一般にキノコ観察に向いていない）
- ・マツと広葉樹の混交する部分は種類が豊富
- ・ブナ類の森はまた違った種のキノコが豊富
- ・特殊な場所にも生える（砂浜、湿地、スギ林などに固有のキノコもある）

3 観察の手順

(1) 発見時

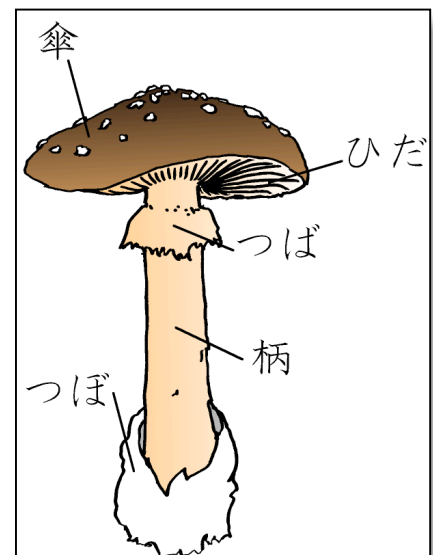
- ・周囲の状況（植生、地形、キノコの数など）を把握
- ・自然な状況の生態写真を撮影
- ・採取し、裏面、隠れていた部分、縦に切った断面等を観察
- ・個体の撮影
- ・新鮮な個体の色、匂い、味等を観察(変色性も含む)

(2) 運搬

- ・丁寧にかご等に入れる
- ・蒸れや乾燥、衝撃に注意する

(3) 仮同定

- ・図鑑を用い属までのあたりをつける
- ・他の人の採った個体との比較や生えていた状況の意見交換
- ・試薬等による変色性を観察するなど



4 図鑑の利用

- ・コンパクトでも掲載種の多いものが良い
- ・同定のためには顕微鏡的特徴の記述が必須
- ・複数の図鑑の図版を比較し種の特徴を把握する
- ・インターネットによる検索も参考にすると良い

5 食毒の見分け方

- ・決まった方法は無い
- ・迷信は無視する（下記2行は全部迷信）
 - 縦に裂けるキノコは食べられる、ナスと一緒に煮ると毒が消える、熱すると毒が消える
 - 虫が食べているキノコは安全、鮮やかな色のキノコは毒、少しだけなら中毒しない
- ・猛毒のキノコを覚えつつ、食べたいキノコを確実に覚える
- ・食用キノコであっても食べ過ぎ、古くなって腐りかけたもの、カビが生えているものなどは注意
- ・ここ3~4年の新しい図鑑は中毒例から「食」菌から毒キノコに訂正されたものが多い。
- ・毒がなくとも食用に不適なキノコは多い

6 キノコという生物

- ・動物でも植物でもなく菌類という生き物に分類されている
- ・動物、植物、他の菌類などの有機物を栄養として生きている
- ・他の生物の遺骸を分解して土に返す分解者としての役割が大きい
- ・植物と共生し、森の生育に関わっているキノコも多い
- ・虫に寄生する冬虫夏草と呼ばれるキノコも興味深い
- ・変形菌（粘菌）は正確にはキノコで無いが広義の菌類に含まれる
- ・キノコの本体は地中の菌糸であり、我々が肉眼で見ているものは植物の花や実にあたる
- ・植物と共生しているキノコは栽培が非常に困難
- ・動物や植物と異なる様々な物質を合成し、薬などとして有用となる可能性が期待されている
- ・まだまだ分布や生態など解明されていないキノコが多く、毎年何種類も新種が見つかっている
- ・微生物でありながら個体が何百m、何トンもある場合もある不思議な生き物
- ・無性生殖と有性生殖の両方を併せ持つ不思議な生き物

推薦図書

- 保育社：原色日本新菌類図鑑(I)、(II)
- 山と溪谷社：日本のきのこ
- 山と溪谷社：フィールドブックスきのこ
- 家の光協会：きのこ図鑑（幼菌の会編）
- 全国農村教育協会：きのこ博士入門